

主体的に学ぶ態度が生徒に育まれるまで、観点別学習状況の評価の意義を機会を捉えて生徒に繰り返し説明していく必要があります。

(5) 多忙化解消のため予算措置により学校ごとに校務支援システムを改善することについて

本システムは、全県で統一したシステムであるため、各校の要望に個々に対応することはできませんが、一度操作方法を覚えれば勤務校が変わった場合にも同じ方法で操作することができるという利点がありますので、本システムが教員の校務をサポートし多忙化解消につながるものとなるようアンケート結果を整理し、対応が可能なものについては予算措置を検討しながら順次対応していきます。

(6) 個人情報の管理は、県による一括管理ではなく各学校の管理にすることについて

現在、県立学校ではインターネット回線としていわて教育情報ネットワークを利用しており、生徒と教員が同じサーバーを共有しています。そのため、各学校が生徒の成績情報を直接管理することはセキュリティーの点から問題があります。文部科学省が現在検討を進めている「教育情報セキュリティーポリシーに関するガイドライン」においても、生徒の成績情報を各学校が管理するのではなく、教育委員会が一元管理することが望ましいと示されています。

なお、校務支援システムは、情報漏洩等を防止するため、インターネットを切断してから本システムに接続する仕組みになっています。教員が本システムを利用する際に、本システム用のネットワークへログインしなければならず、そのことによる不便さはありますが、そのことがセキュリティーを強化し情報漏洩防止につながっていることを御理解願います。

3 最後に～生徒の主体的で豊かな学びの保障に向けた評価の在り方について～

社会変化の先行きが見通せない時代の到来とともに、そのような社会の中で自己実現を図りながら活躍していくこれからの生徒に求められる資質にも見直しが求められるようになり、学習指導要領の改訂や高大接続システムの改革等、高校教育を取り巻く環境は今後大きく変化していきます。

今後は、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して思考・判断したことを表現する力や主体的に学ぶ態度を育むことが一層重要になります。知識・技能の重要性はこれまでと変わるものではありませんが、知識・技能の習得の後に思考・判断・表現する力をつけるということではなく、態度も含めてお互いを相互に関係させながら育んでいく必要があります。

求められる資質が変われば、それに応じた評価と授業の改善も必要です。これまでの期末考査にウェイトを置いた総括的な評価だけではなく、目標に準拠した4観点に基づいて日々の学習を形成的に評価しながら、教師自身の授業改善と授業力向上及び生徒自身の学習の振り返りに繋げていくことが重要です。

観点別学習状況の評価は、これまで個々の教員や学校が積み重ねてきた評価や授業の実践を否定するものではありません。これからの生徒に求められる資質を育んでいくために、これらを包括して更に授業と評価の一体化を向上させようとするものです。

この度の貴団体からの要請が、生徒の主体的で豊かな学びを保障するための評価とはどのようにあるべきかということについて、立場を超えて教員個々が考える機会となれば幸いです。

県教委の回答は観点別評価シートについては「学校の判断で、このシートを用いずに、校務支援システムに直接点数を入力することも可能」という回答があるものの、全体として高教組の要請内容に対して不十分な回答です。

校務支援システムについては、要請を受けて改善点を改修するとし、2月県議会に予算請求しました。